

第3章 全国調査との比較

1 青少年の体験活動等に関する実態調査について

(1) 調査機関

国立青少年教育振興機構

(2) 調査の名称

青少年の体験活動に関する実態調査

(3) 調査の目的

青少年教育関係者が実施する事業の企画立案、運営等に資するため、青少年の体験活動等や自立に関する意識等の実態について全国規模の調査を実施し、基礎資料を提供する。

(4) 調査内容

<子ども調査>

- ・自然体験・生活体験・お手伝いの実態
- ・生活習慣等の実態
- ・自立に関する意識・行動
- ・生活環境・メディア接触
- ・携帯電話・スマートフォンの使用

<保護者調査>

- ・子どもの自然体験の実態
- ・子どもの体験活動に対する意識
- ・保護者の子どもへのしつけや教育等に関する実態
- ・保護者の自然体験の実態
- ・子どもの教育費や世帯収入 他

(5) 調査対象

- ・全国の公立小学校1年生・2年生・3年生の保護者
- ・全国の公立小学校4年生・5年生・6年生とその保護者
- ・全国の公立中学校2年生
- ・全国の公立全日制高等学校2年生

(6) 調査実施時期

平成27年2月～3月

(7) 回収数

学校種別	学年	子ども用		保護者用	
		回収数	回収率	回収数	回収率
小学校	1年			2,407	84.6%
	2年			2,507	87.3%
	3年			2,750	92.0%
	4年	2,705	87.7%	2,692	87.3%
	5年	2,788	88.5%	2,776	88.1%
	6年	2,726	89.6%	2,722	89.5%
中学校	2年	4,493	87.4%		
高等学校	2年	5,319	94.2%		
計		18,031	89.9%	15,854	88.1%

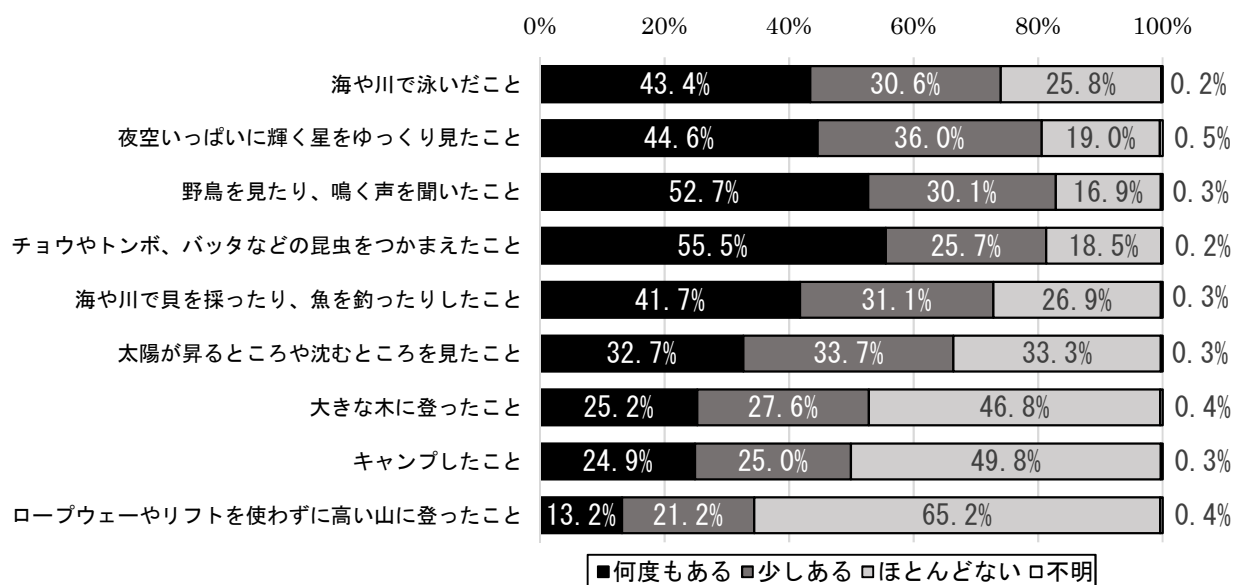
2 青少年の体験活動

(1) 自然体験（小4、中2、高2）

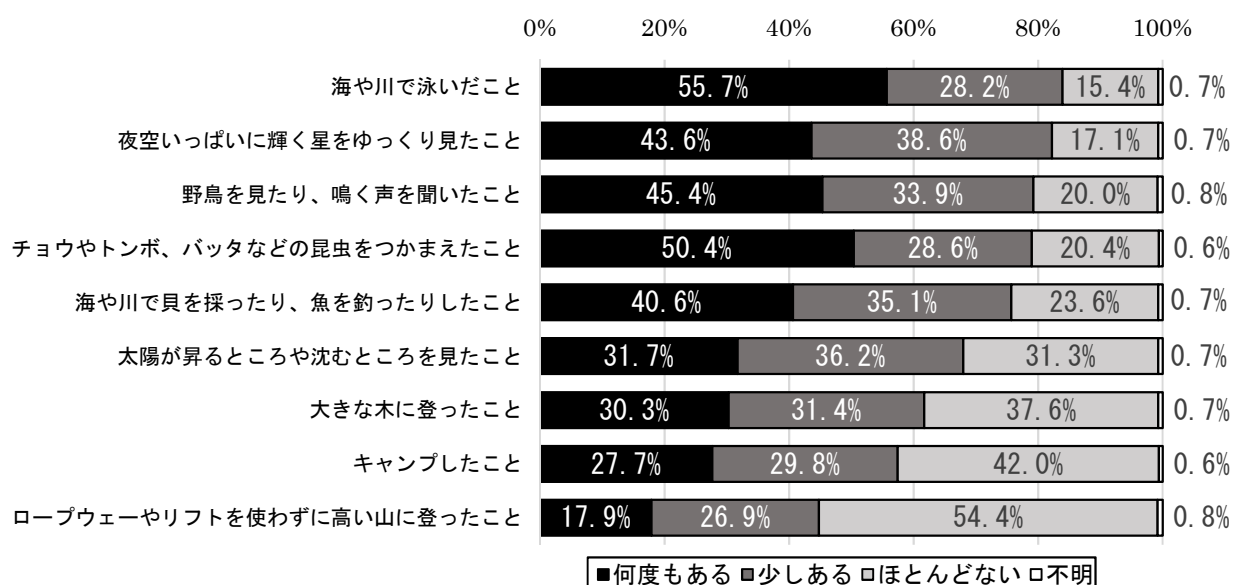
自然体験活動に関する項目（P5～7参照）に対して、「何度もある」「少しある」と答えた割合の合計を見ると、青森県の割合は全国の割合に比べて高かった項目は、「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」（3.5ポイント増）や「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」（2.2ポイント増）となっている。

一方、全国の割合と比べて特に低かった項目は、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」（10.4ポイント減）、「海や川で泳いだこと」（9.9ポイント減）、「大きな木に登ったこと」（8.9ポイント減）となっている。

自然体験活動の項目別現状（青森県）



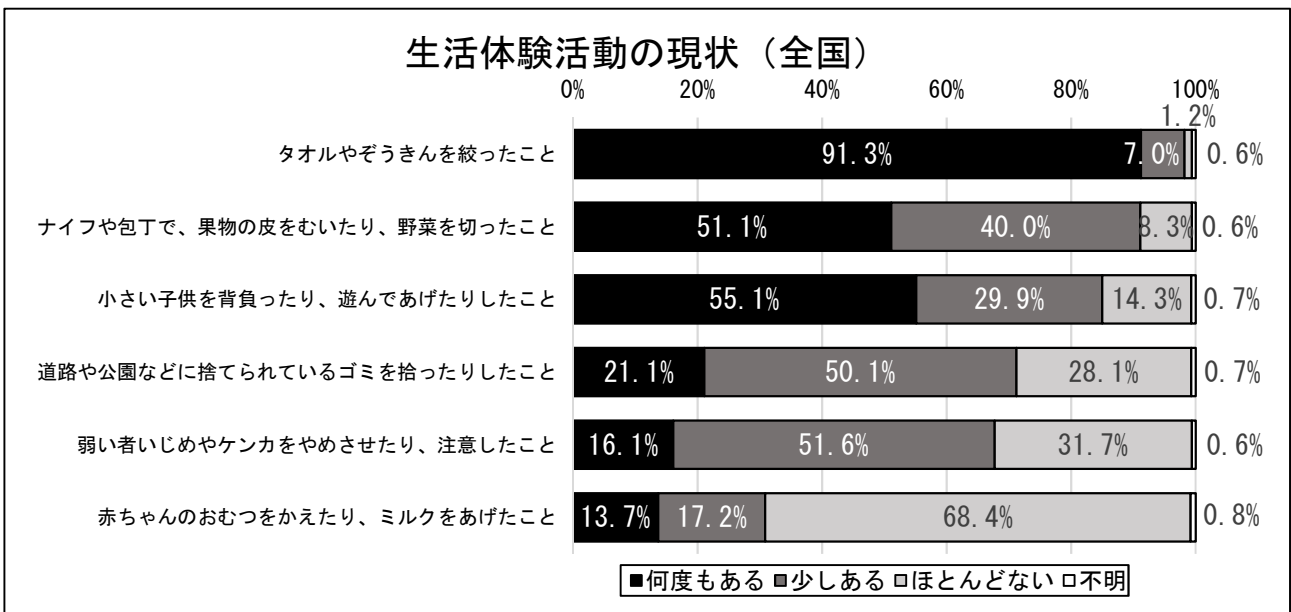
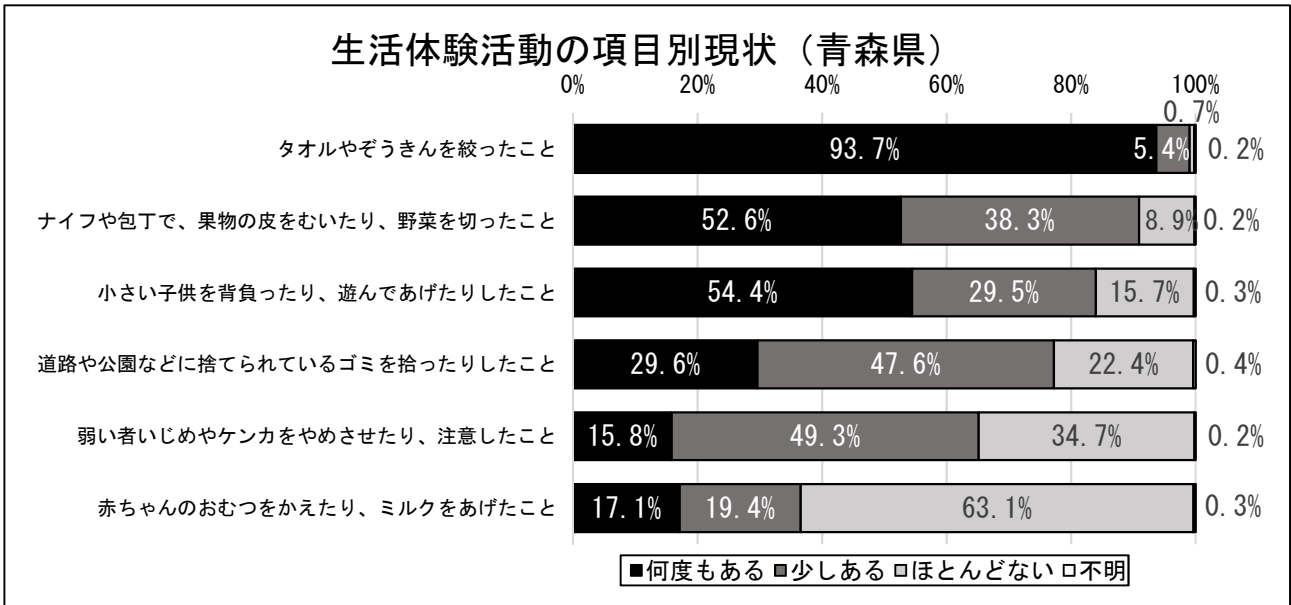
自然体験活動の項目別現状（全国）



(2) 生活体験 (小4、中2、高2)

生活体験活動に関する項目 (P3~4参照) に対して、「何度もある」「少しある」と答えた割合の合計を見ると、青森県の割合は全国の割合に比べて高かった項目は、「道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと」(6.3ポイント増)、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」(5.6ポイント増)、「タオルやぞうきんを絞ったこと」(0.8ポイント増)、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」(0.2ポイント増)となっている。

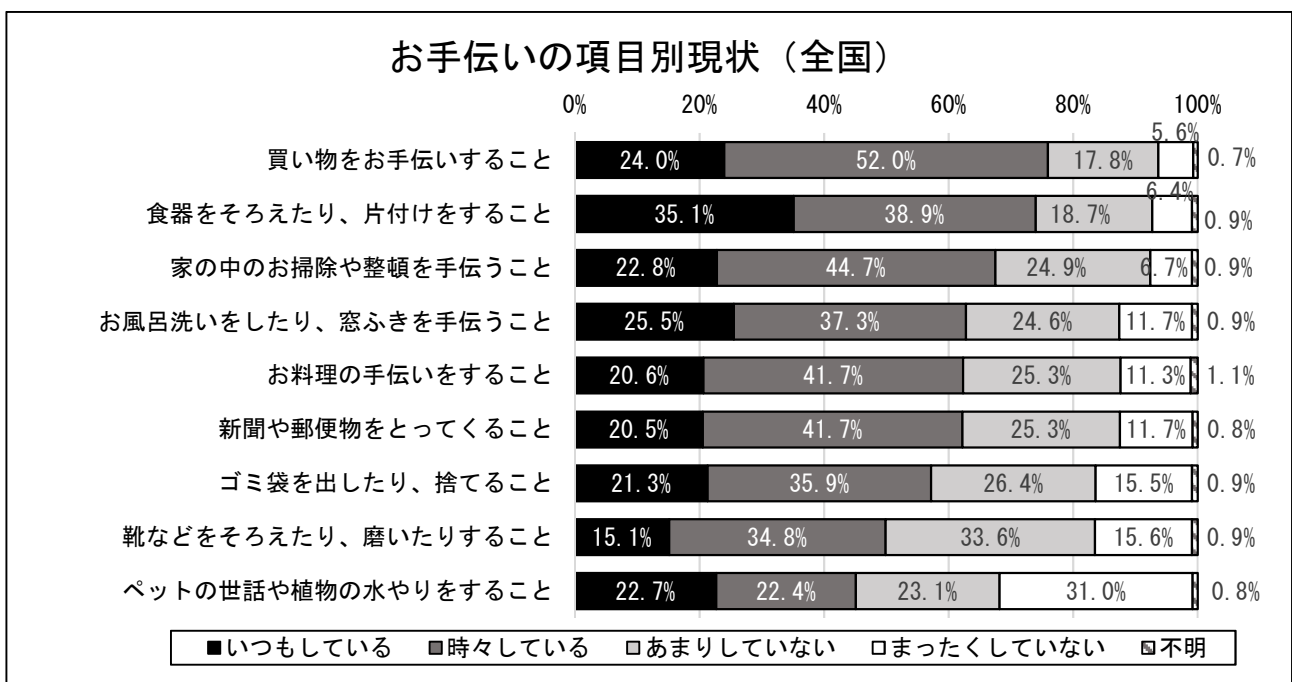
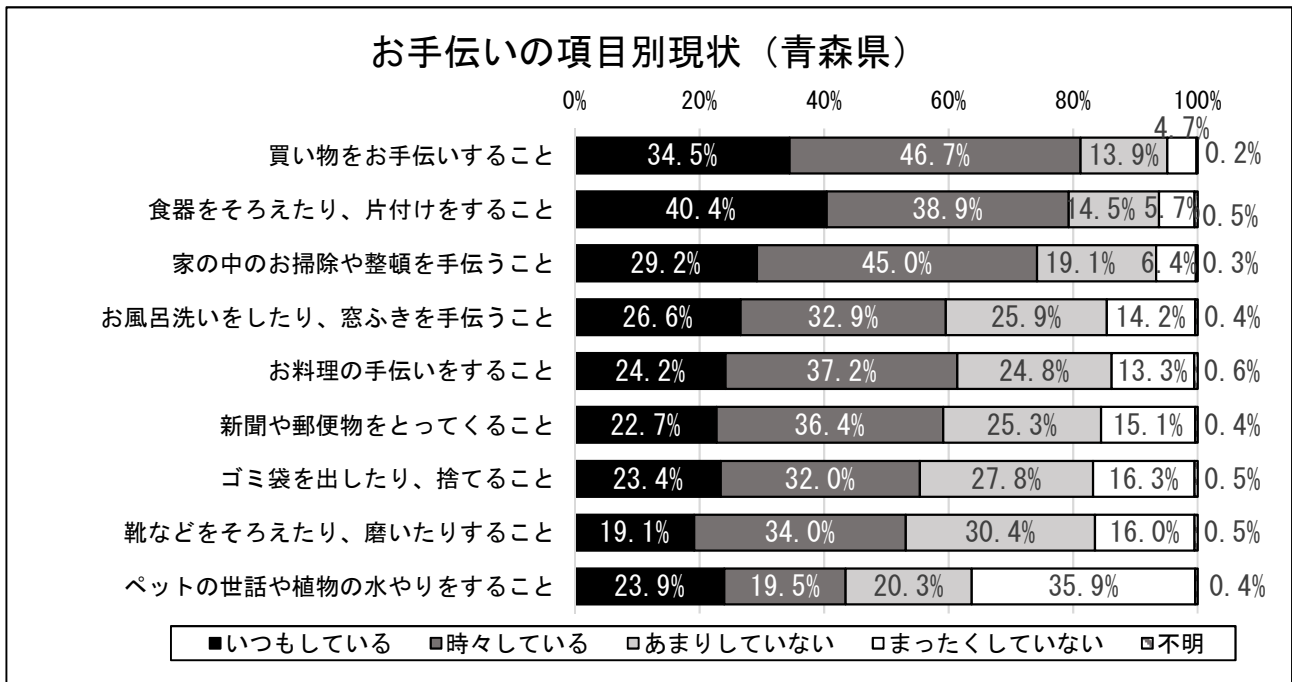
一方、全国の割合と比べて低かった項目は、「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」(1.6ポイント減)、小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと(1.1ポイント減)となっている。



(3) お手伝い（小4、中2、高2）

お手伝いに関する項目（P8～10参照）に対して、「何度もある」「少しある」と答えた割合の合計を見ると、青森県の割合が全国の割合に比べて高かった項目は、「家の中のお掃除や整頓を手伝うこと」（6.7ポイント増）、「食器をそろえたり、片付けをすること」（5.3ポイント増）、「買い物をお手伝いすること」（5.2ポイント増）、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」（3.2ポイント増）となっている。

一方、全国の割合と比べて低かった項目は、「お風呂洗いをしたり、窓ふきを手伝うこと」（3.3ポイント減）、「新聞や郵便物をとってくること」（3.1ポイント減）、「ゴミ袋を出したり、捨てること」（1.8ポイント減）、「ペットの世話や植物の水やりをすること」（1.6ポイント減）、「お料理の手伝いをすること」（0.9ポイント減）となっている。

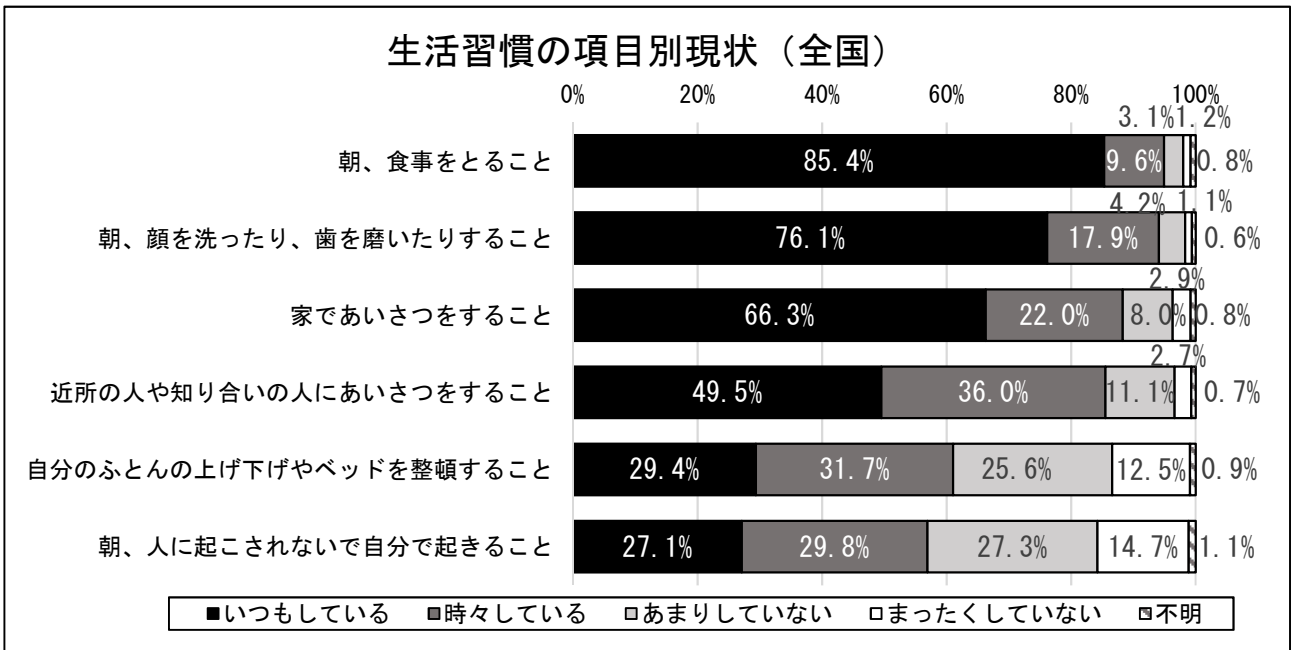
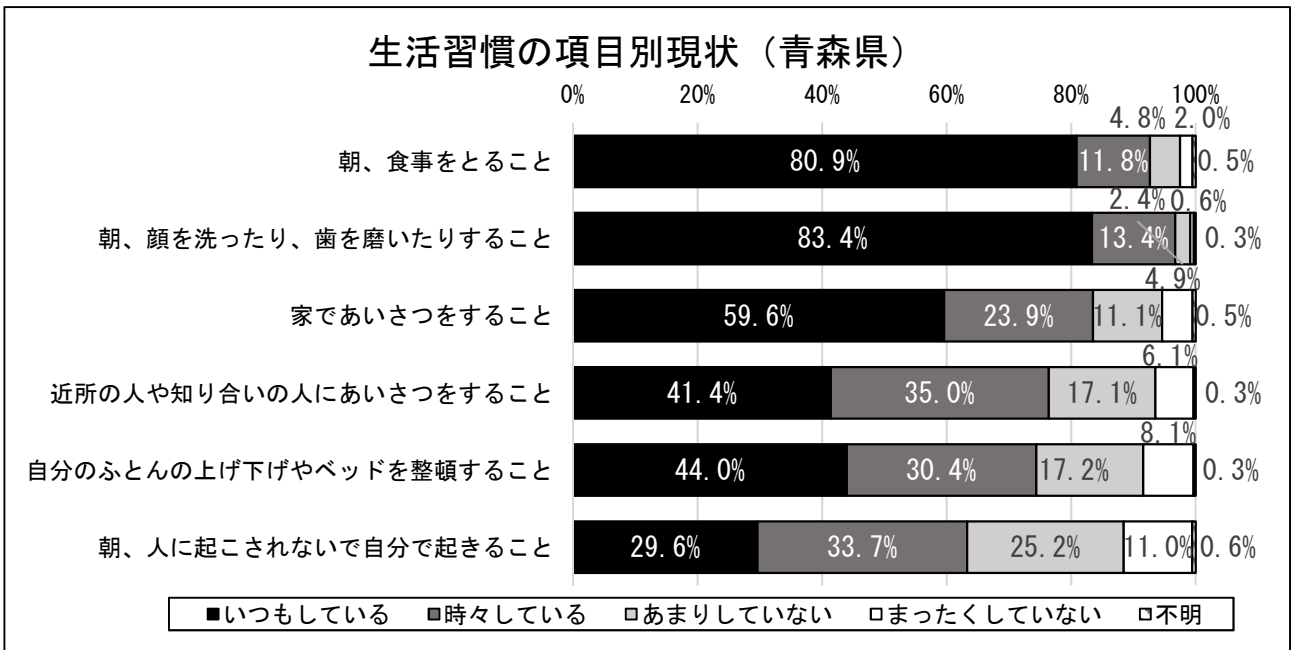


(4) 生活習慣

① 生活習慣（小4、中2、高2）

生活習慣に関する項目（P11～12参照）に対して、「何度もある」「少しある」と答えた割合の合計を見ると、青森県の割合は全国の割合に比べて高かった項目は、「自分のふとんの上げ下げやベッドを整頓すること」（13.3ポイント増）、「朝、人に起こされないうで自分で起きること」（6.4ポイント増）、「朝、顔を洗ったり、歯を磨いたりすること」（2.7ポイント増）となっている。

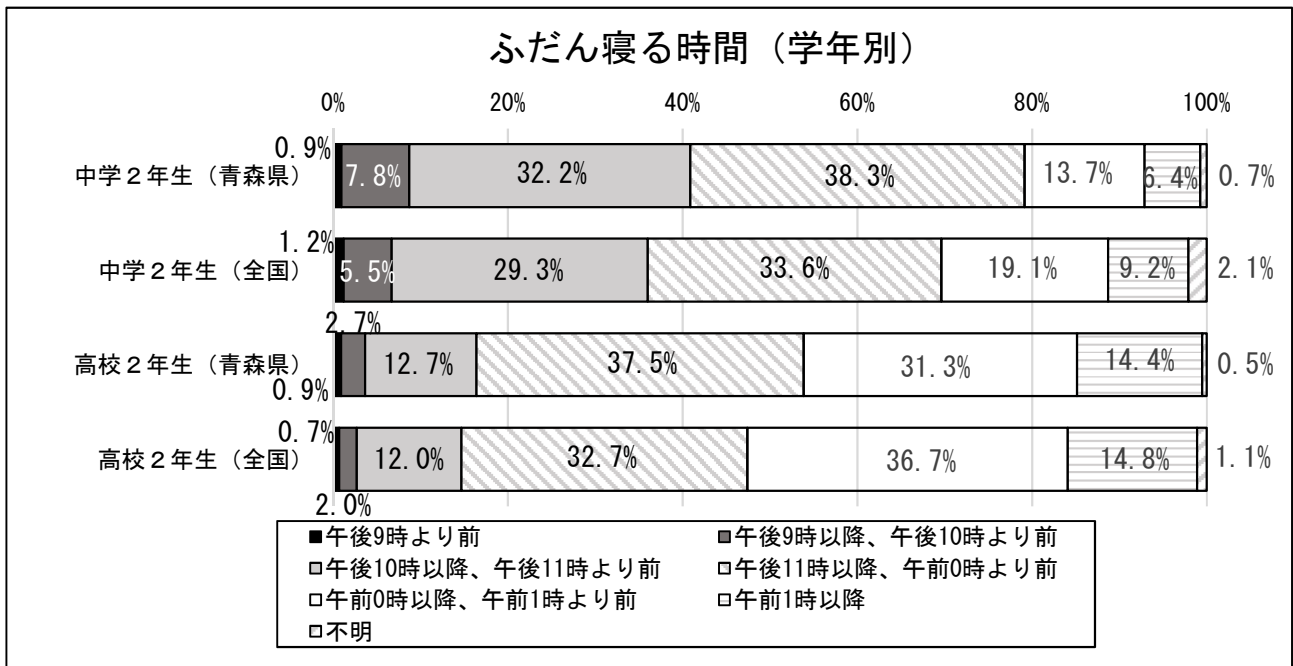
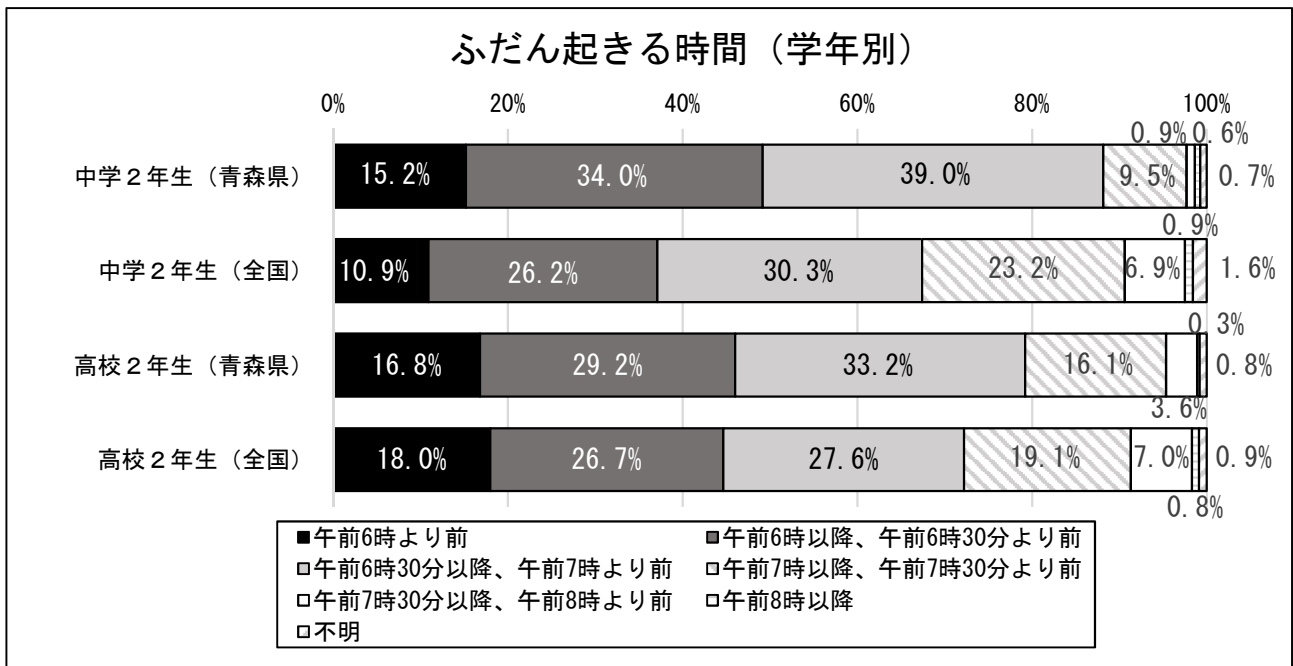
一方、全国の割合と比べて低かった項目は、「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」（9.1ポイント減）、「家であいさつをすること」（4.8ポイント減）、「朝、食事をとること」（2.3ポイント減）となっている。



② ふだん起きる時間・ふだん寝る時間（中2、高2）

ふだん起きる時間（P27参照）を学年別にみると、青森県、全国のいずれも「午前6時30分以降、午前7時より前」と回答する割合が最も高かった。いずれの学年も青森県は全国に比べ、「午前6時より前」と「午前6時以降、午前6時30分より前」と答えた者の割合の合計が高く、起きる時間が全国に比べ、早い傾向が見られる。

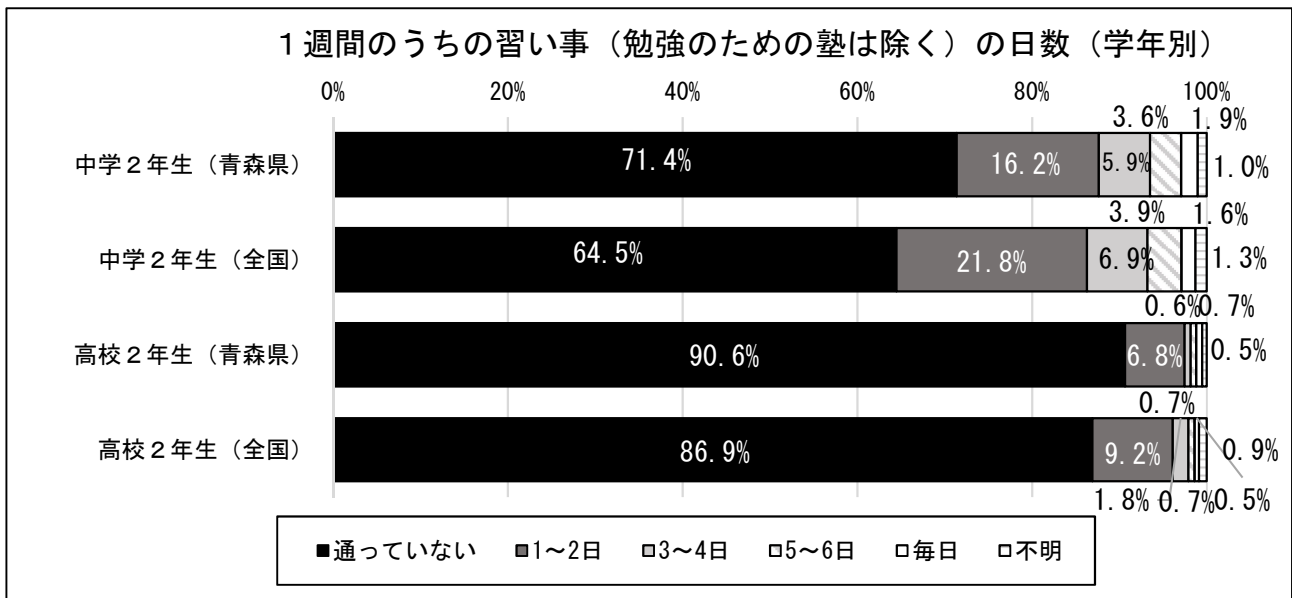
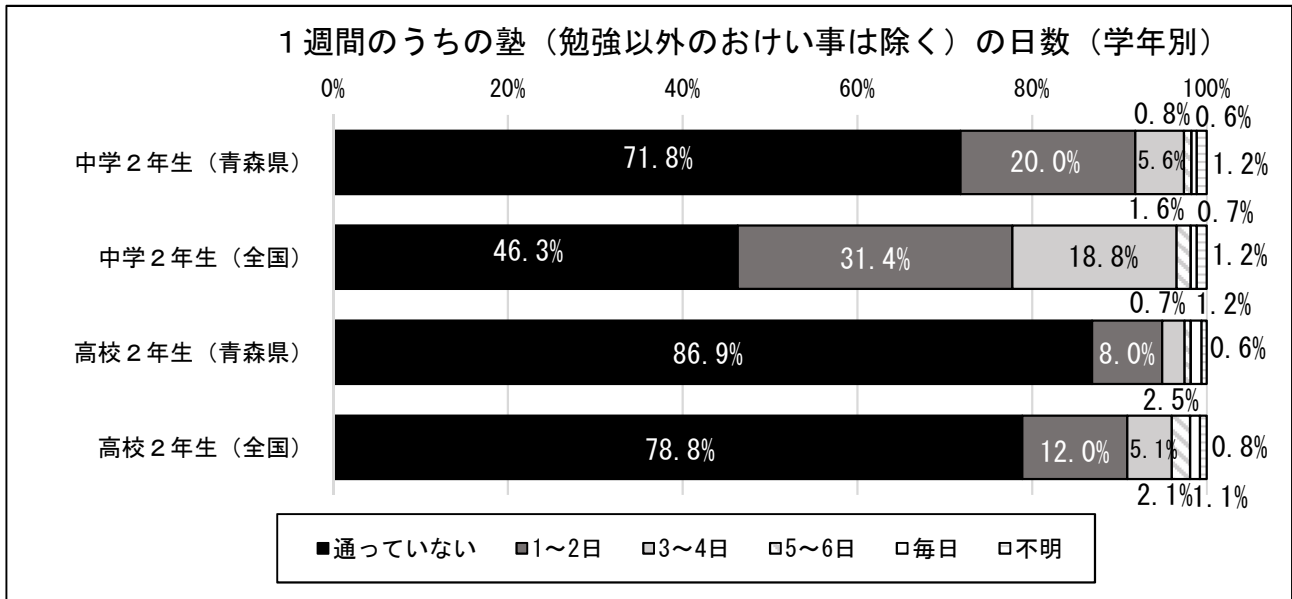
ふだん寝る時間を学年別にみると、青森県、全国の中学2年生、青森県の高校2年生は「午後11時以降、午前0時より前」の割合が最も高く、全国の高校2年生は「午前0時以降、午前1時より前」が最も高い。青森県は全国と比べると、いずれの学年も「午前0時より前」に寝る者の割合が高い。



③ 塾・習い事（中2、高2）

1週間のうちの塾（勉強以外のおけい事は除く）の日数（P34参照）を学年別にみると、青森県、全国のいずれも「通っていない」と回答する割合が最も高かった。特に中学2年生をみると、青森県は全国に比べ、「通っていない」と答えた者の割合が25.5ポイント増であった。

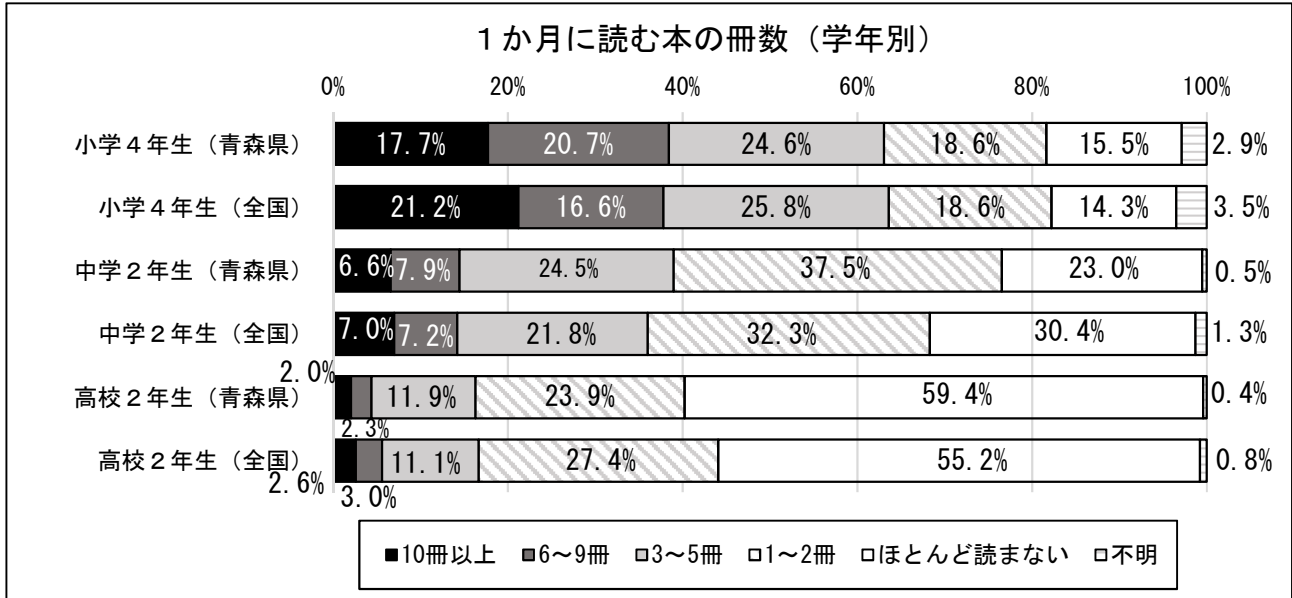
1週間のうちの習い事（勉強のための塾は除く）の日数を学年別にみると、青森県、全国のいずれも「通っていない」と回答する割合が最も高かった。青森県のいずれの学年も「通っていない」と「1～2日」を足した割合は全国の割合と比べるとあまり大きな差はみられない。



④ 読書活動（小4、中2、高2）

1か月に読む本（P27参照）を学年別にみると、学年が上がるにつれて読む本の冊数は減少し、高校生になると「ほとんど読まない」と回答した割合が、青森県、全国ともに5割以上になっている。

特に青森県の高校2年生は「ほとんど読まない」と回答した者が6割弱であり、全国と比べても4.2ポイント増となっている。



3 青少年の意識

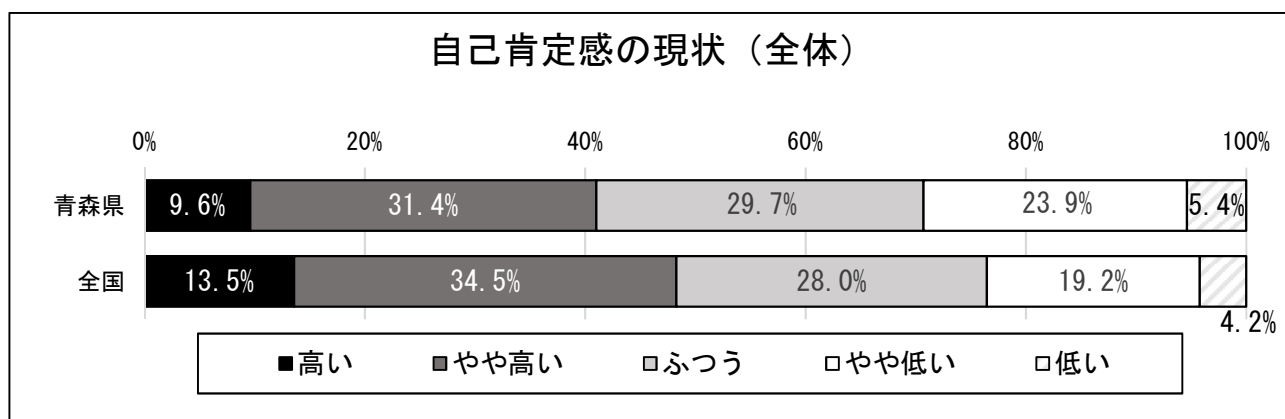
(1) 自己肯定感（小4、中2、高2）

本調査において、自己肯定感の現状を把握するため、自己肯定感に関連すると考えられる6項目（調査結果については、P20～21参照）について全国の調査結果と比較した。6項目とは、「学校の友だちが多い方だ」、「学校以外の友だちが多い方だ」、「勉強は得意な方だ」、「今の自分が好きだ」、「自分には自分らしさがある」、「体力には自信がある」であり、それぞれの調査結果の数値を得点化（「とても思う」を1点、「少し思う」を2点、「あまり思わない」を3点、「全く思わない」を4点）し、6項目の合計を項目数（6）で割ったものを平均点とし、1点以上1.6点未満を「高い」、1.6点以上2.2点未満を「やや高い」、2.2点以上2.8点未満を「ふつう」、2.8点以上3.4点未満を「やや低い」、3.4点以上4点未満を「低い」の5段階に分類した。

<全体>

小学校4年生、中学2年生、高校2年生の得点化した数値を集計したものを「自己肯定感の現状（全体）」とし、全国の調査結果と比較した。

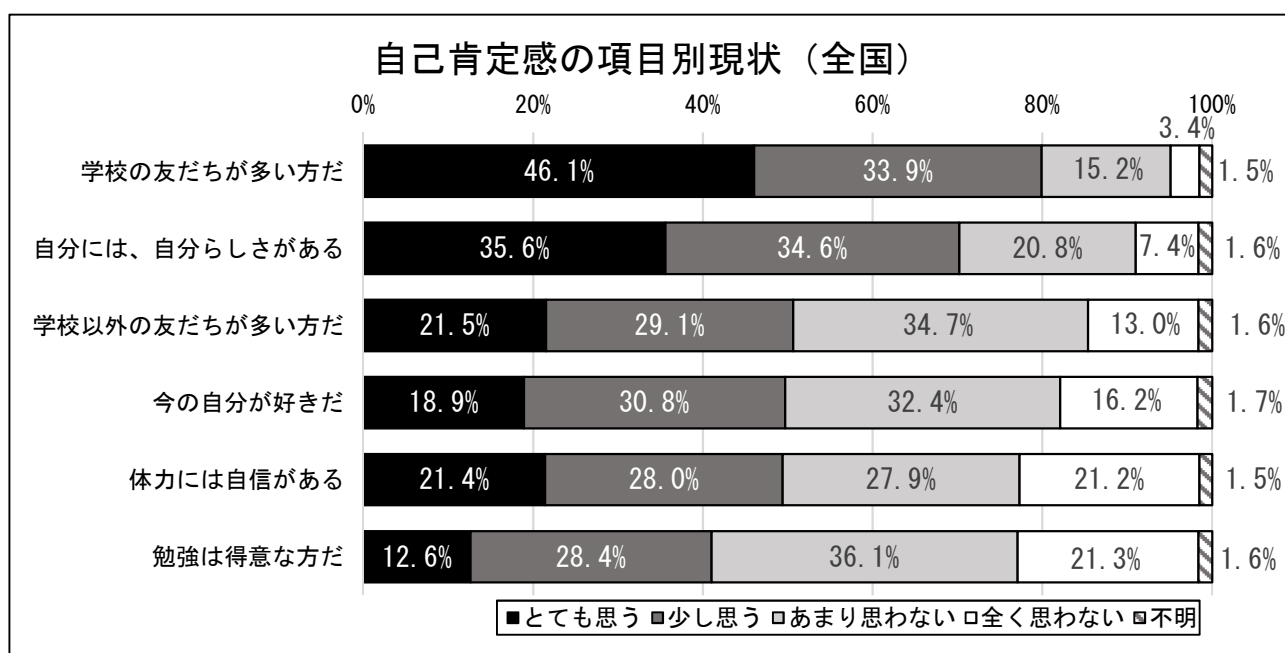
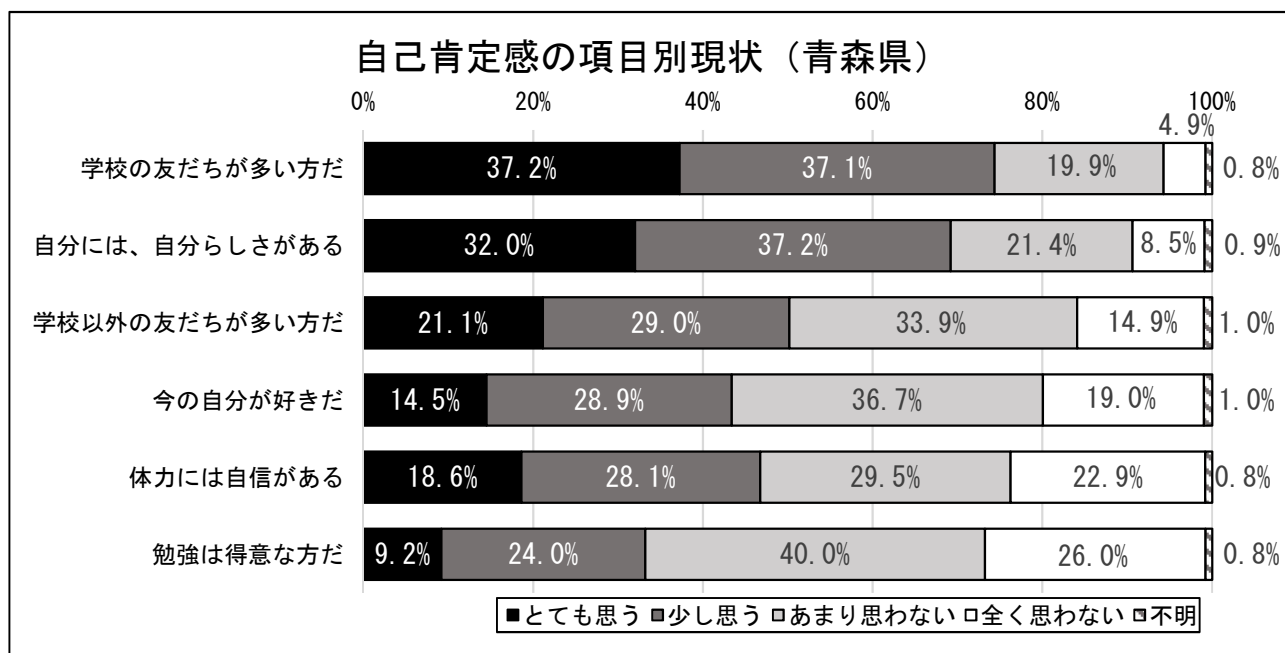
青森県は「高い」と「やや高い」の合計が41.0%となっており、全国と比較すると7.0ポイント低くなっている。



<項目別>

青森県の自己肯定感に関する項目に対して「とても思う」「少し思う」と答えた者の割合の合計をみると、「勉強は得意な方だ」（74.4ポイント）が最も高く、次いで「自分には、自分らしさがある」（69.2ポイント）や「学校以外の友だちが多い方だ」（50.2ポイント）となっている。

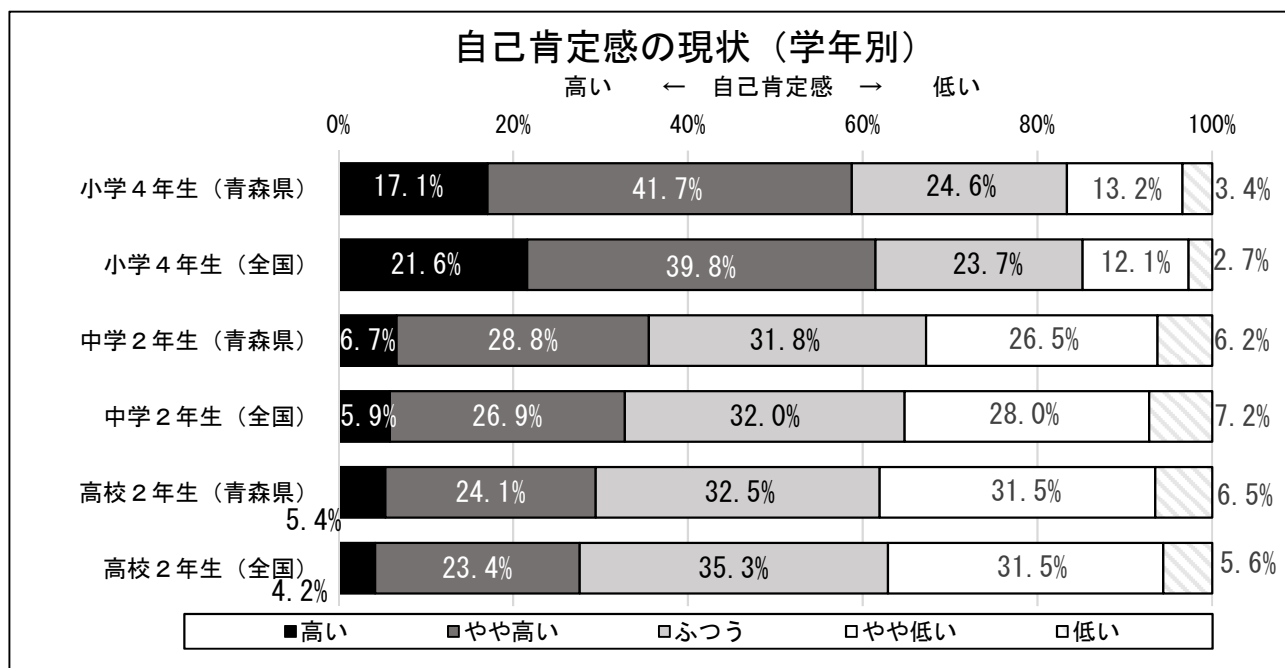
青森県の自己肯定感の項目別で「とても思う」と「少し思う」を足した割合を全国と比較すると、全体的に低くなっており、特に「勉強は得意な方だ」（7.8ポイント減）、「今の自分が好きだ」（6.3ポイント減）、「学校の友だちが多い方だ」（5.6ポイント減）となっている。



< 学年別 >

自己肯定感全体の現状を学年別にみると、学年が上がるにつれて、青森県と全国のいずれも「高い」「やや高い」の割合の合計は低くなり、小学生から中学生にかけては著しく低下する傾向がみられる。

青森県と全国の「高い」「やや高い」の割合の合計を比較すると、中学2年生は2.7ポイント増、高校2年生は1.8ポイント増となっている。一方、小学4年生は2.6ポイント減となっている。



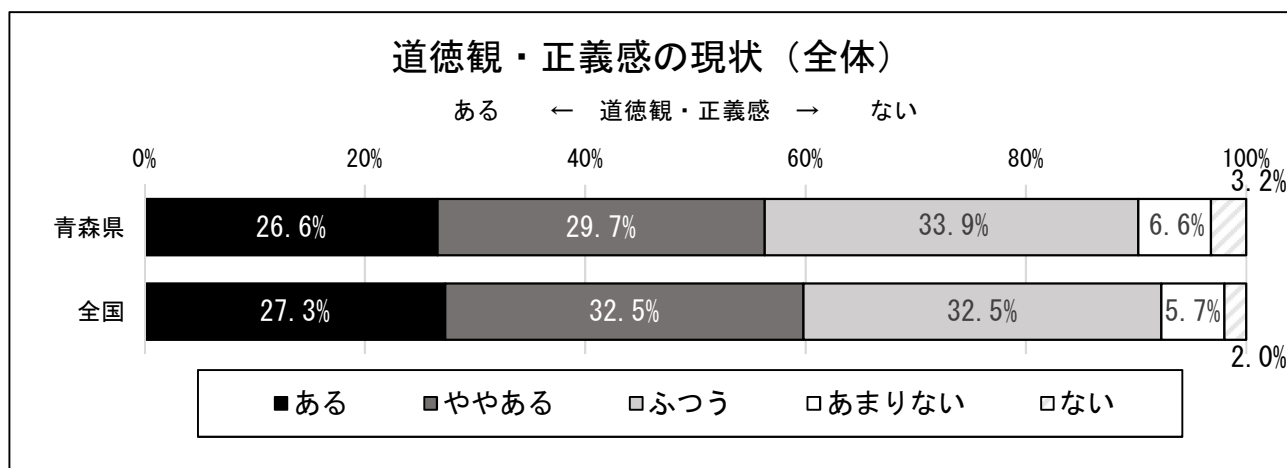
(2) 道徳観・正義感（小4、中2、高2）

本調査において、道徳観・正義感の現状を把握するため、道徳観・正義感に関連すると考えられる4項目（調査結果については、P12参照）について全国の調査結果と比較した。4項目とは、「家であいさつをすること」、「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」、「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること」、「友達が悪いことをしていたら、やめさせること」であり、それぞれの調査結果の数値を得点化（「必ずしている」を1点、「だいたいしている」を2点、「あまりしていない」を3点、「していない」を4点）し、4項目の合計を項目数（4）で割ったものを平均点とし、1点以上1.6点未満を「ある」、1.6点以上2.2点未満を「ややある」、2.2点以上2.8点未満を「ふつう」、2.8点以上3.4点未満を「あまりない」、3.4点以上4点未満を「ない」の5段階に分類した。

<全体>

小学校4年生、中学2年生、高校2年生の得点化した数値を集計したものを「道徳観・正義感の現状（全体）」とし、全国の調査結果と比較した。

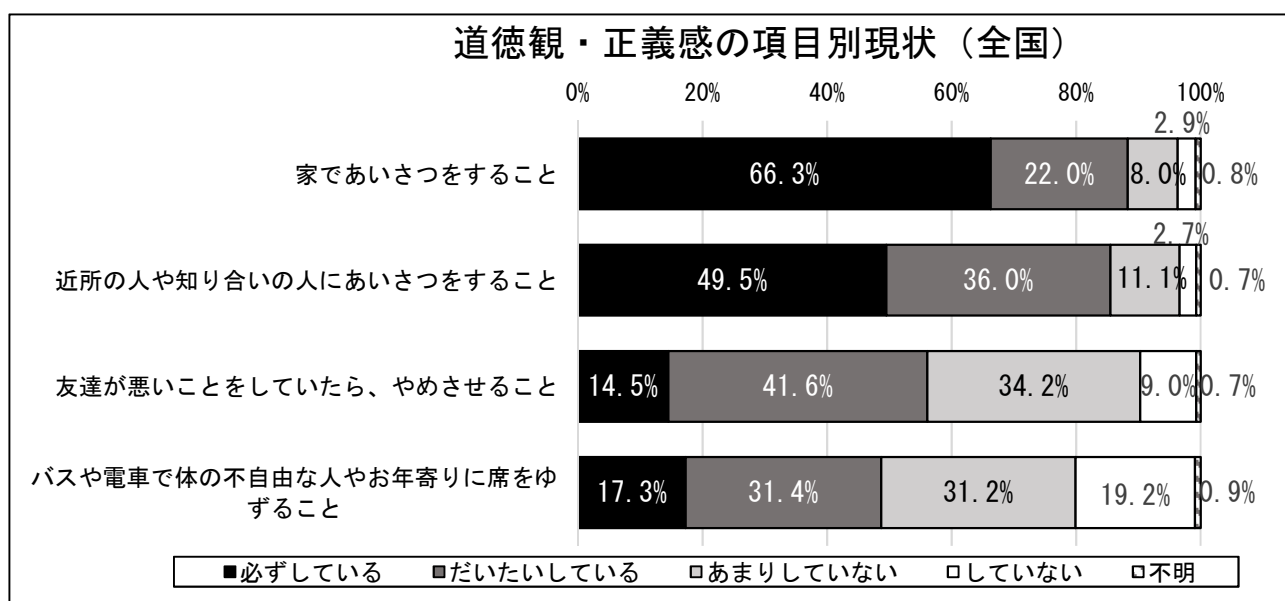
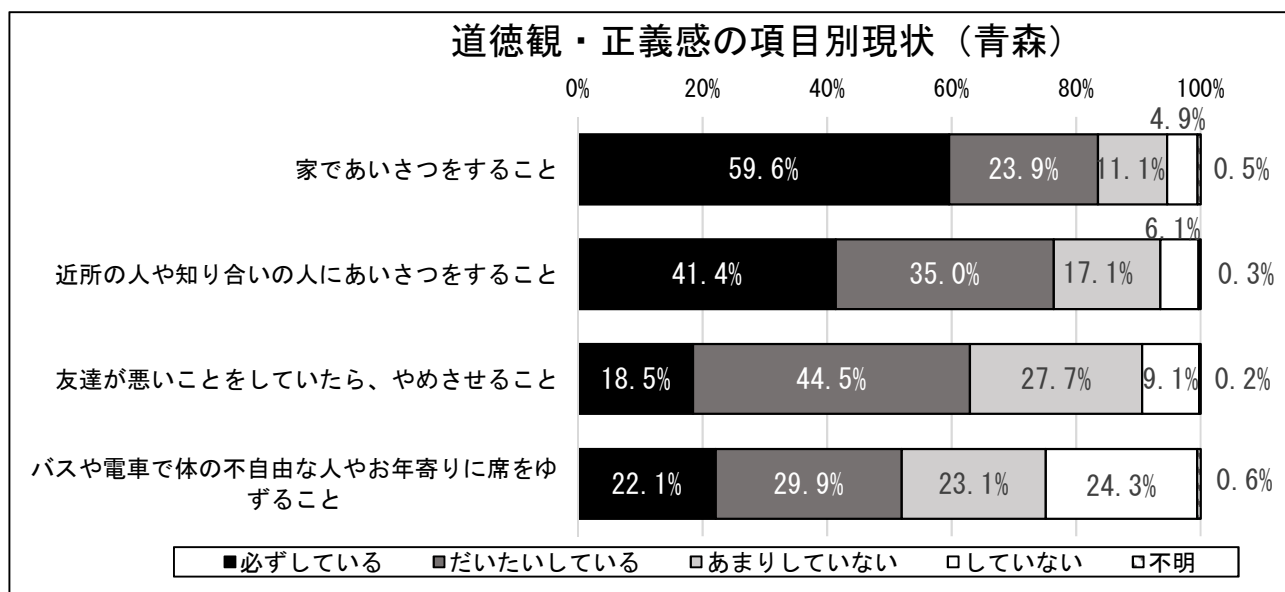
青森県は「ある」と「ややある」の合計が56.3%となっており、全国と比較すると3.5ポイント低くなっている。



<項目別>

青森県の道徳観・正義感に関する項目に対して「ある」「ややある」と答えた者の割合の合計をみると、「家であいさつをすること」(83.5ポイント)が最も高く、次いで「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」(76.4ポイント)となっており、「あいさつ」に関する項目が高くなっている。

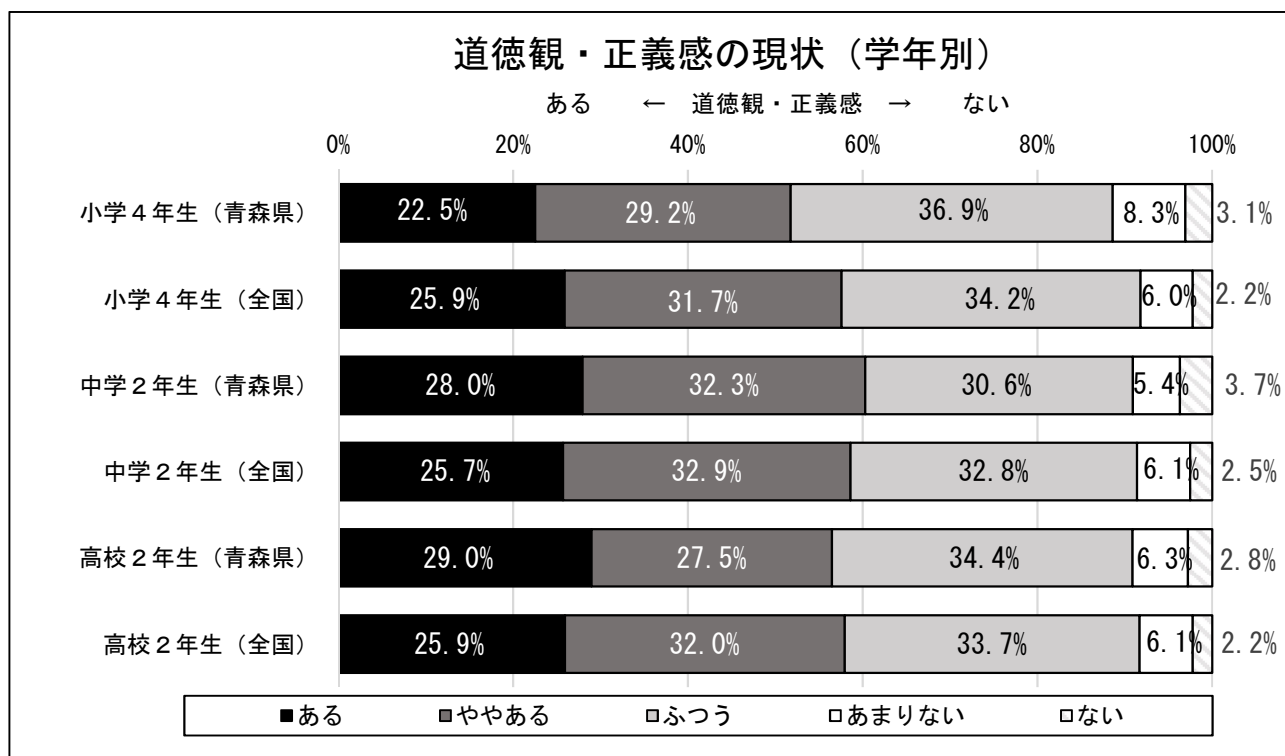
青森県の青少年の道徳観・正義感の項目別で「ある」と「ややある」を足した割合を全国と比較すると、「友達が悪いことをしていたら、やめさせること」(6.9ポイント増)、「バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずること」(3.3ポイント増)となっている。一方、「近所の人や知り合いの人にあいさつをすること」(9.1ポイント減)、「家であいさつをすること」(4.8ポイント減)となっている。



< 学年別 >

道徳観・正義感の現状を学年別にみると、「高い」「やや高い」の割合の合計は全国では3学年ではあまり変化がみられなかった。一方、青森県では小学生から中学生にかけては増加するが、中学生から高校生にかけては減少する傾向がみられる。

青森県と全国の「高い」「やや高い」の割合の合計を比較すると、中学2年生は1.7ポイント増となっている。一方、小学4年生は5.8ポイント減、高校2年生は1.4ポイント減となっている。



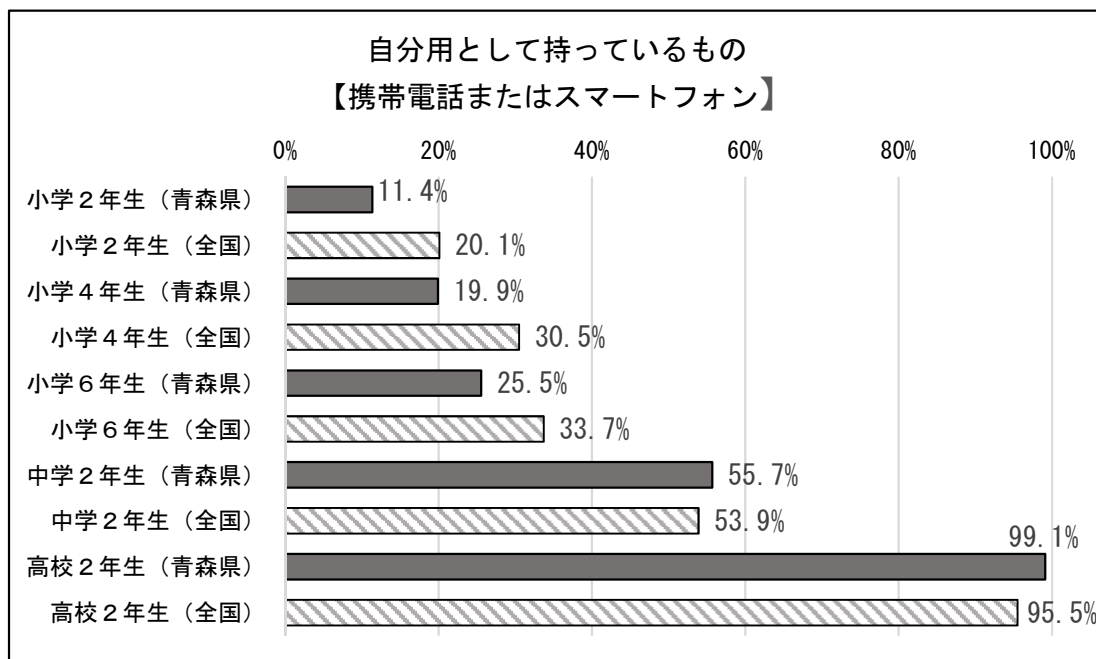
4 青少年の携帯電話・スマートフォンの所有や使用

(1) 携帯電話・スマートフォンの所有や使用の実態

① 携帯電話・スマートフォンの所有（小2・4・6㊟、中2、高2）

携帯電話・スマートフォンを所有している割合（P31、45参照）は、学年が上がるにつれて高くなり、青森県、全国はいずれも中学2年生になると5割以上、高校2年生になると9割以上が所有している。

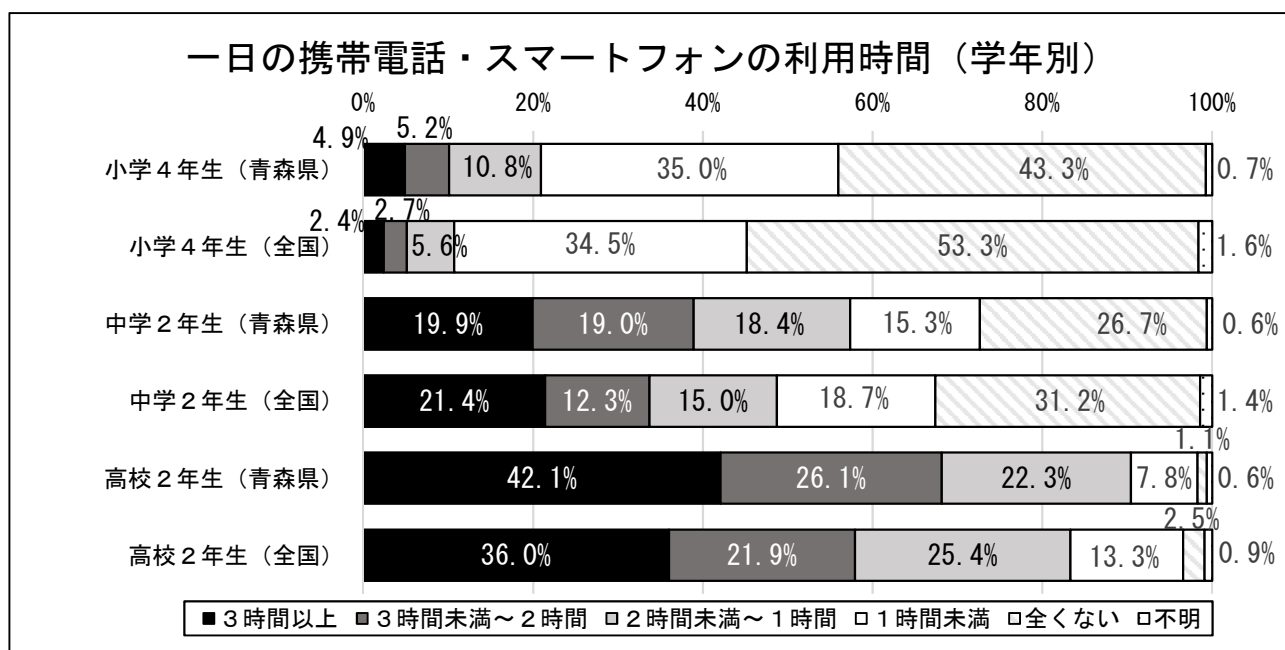
また、青森県で携帯電話・スマートフォンを所有している割合を全国と比較すると、小学生は低いのが、中学2年生、高校2年生は高くなっている。



② 携帯電話・スマートフォンの利用時間（小4、中2、高2）

携帯電話・スマートフォンの利用時間では、学年が上がるにつれて、高くなっている。

また、青森県で携帯電話・スマートフォンを2時間以上利用する割合を全国と比較すると、いずれの学年も高くなっている。



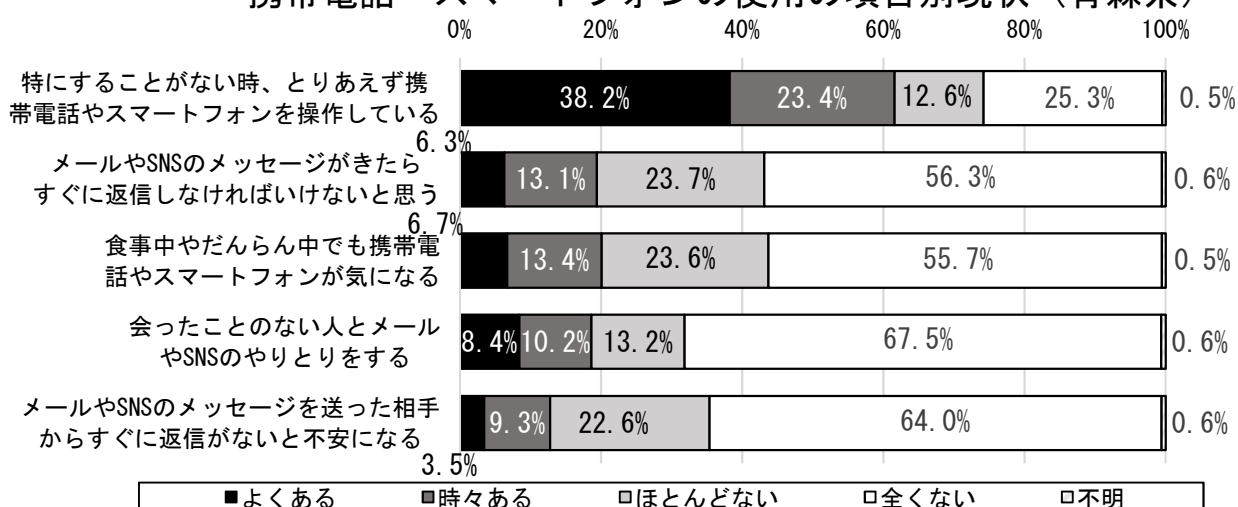
(2) 携帯電話・スマートフォンの使用（小4、中2、高2）

<全体>

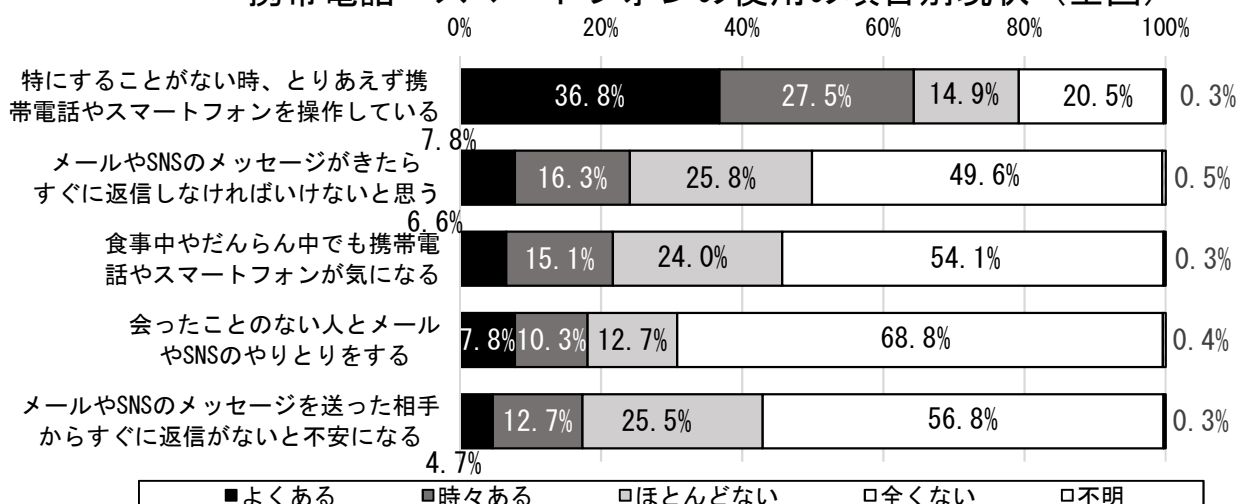
携帯電話・スマートフォンの使用について、「よくある」「時々ある」と答えた者の割合の合計をみると、青森県と全国ともに「特にすることがない時、とりあえず携帯電話やスマートフォンを操作している」が最も多く、6割以上になっている。

項目ごとにみると、青森県で「よくある」「時々ある」と答えた者の割合の合計は全国に比べ、低い項目が多い。特に低い項目は、「メールやSNSのメッセージがきたらすぐに返信しなければいけないと思う」(4.7ポイント減)、「メールやSNSのメッセージを送った相手からすぐに返信がないと不安になる」(4.6ポイント減)となっている。

携帯電話・スマートフォンの使用の項目別現状（青森県）



携帯電話・スマートフォンの使用の項目別現状（全国）

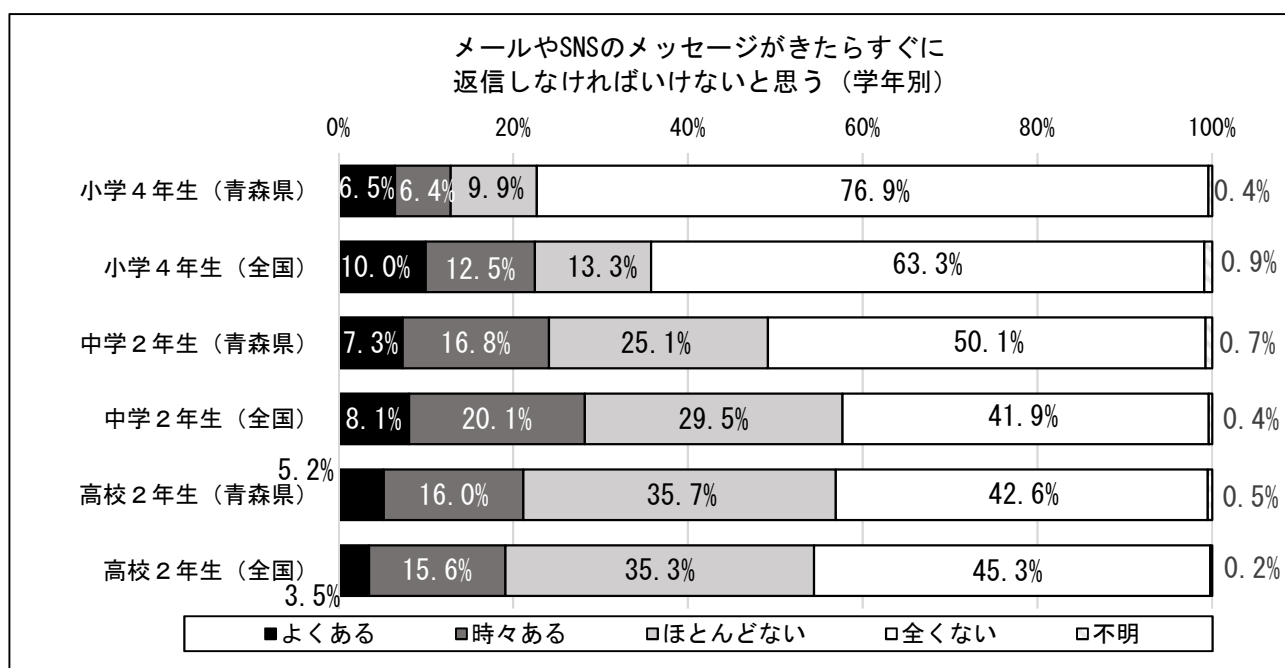
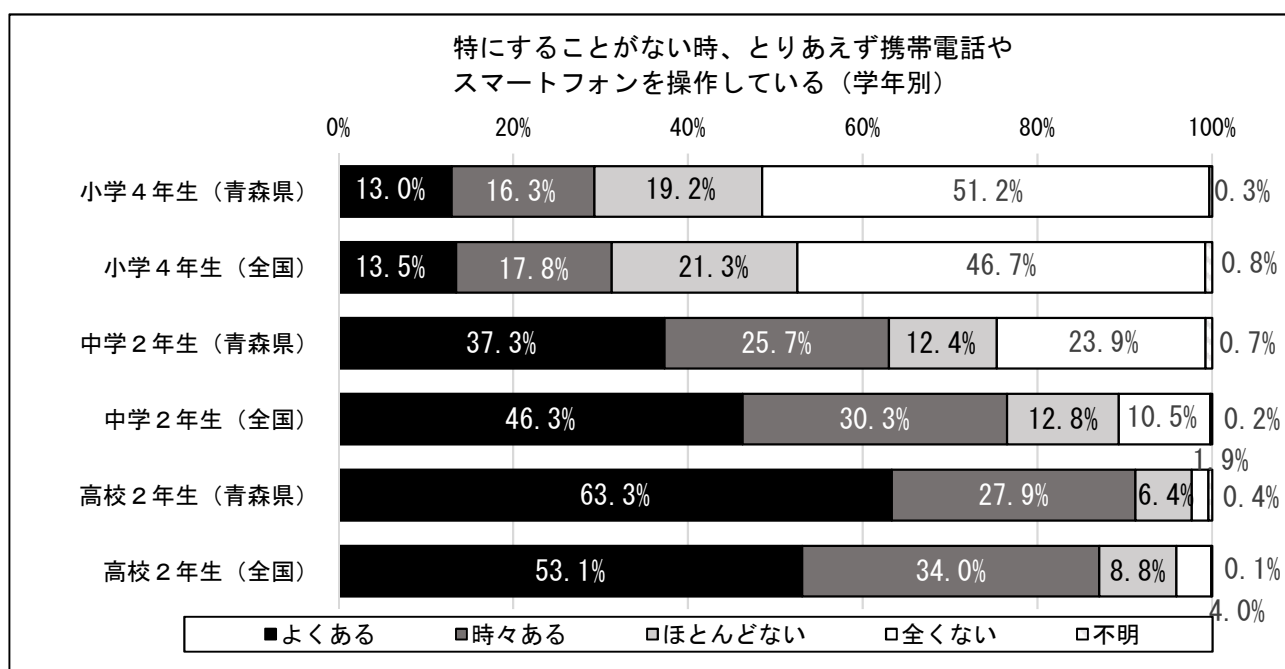


<学年別>

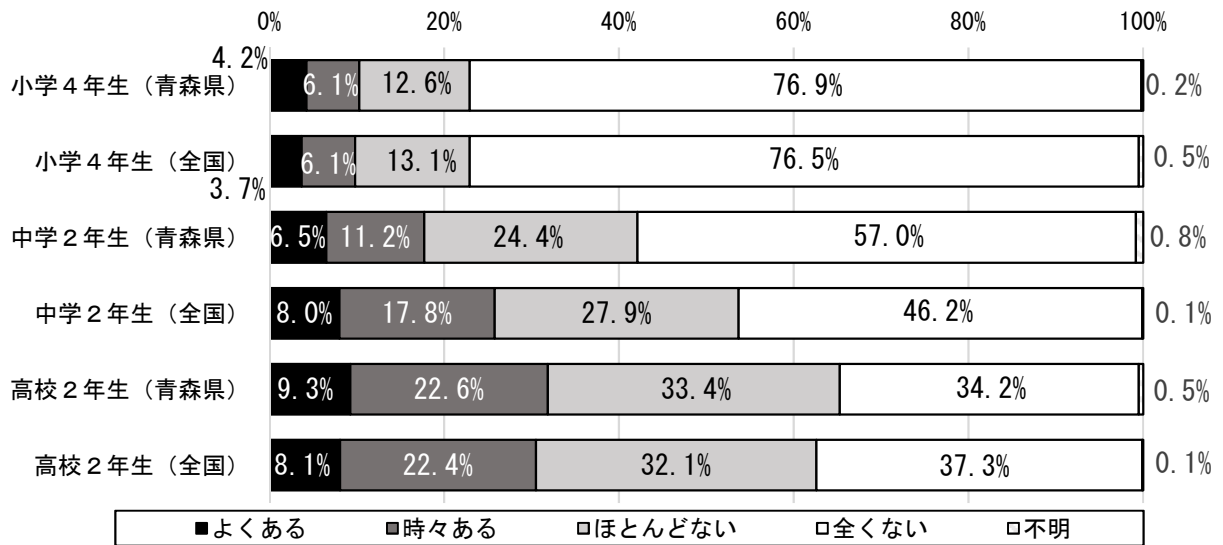
携帯電話・スマートフォンの使用について、「よくある」「時々ある」と答えた者の割合の合計をみると、青森県、全国ともに学年が上がるにつれて高くなる傾向がある。一方、「メールやSNSのメッセージがきたらすぐに返信しなければいけないと思う」だけは、中学2年生から高校2年生にかけて低くなっている。

項目別にみると、「特にすることがない時、とりあえず携帯電話やスマートフォンを操作している」において「よくある」「時々ある」と答えた青森県の中学2年生の割合は6割を超え、高校2年生の割合は9割を超えている。

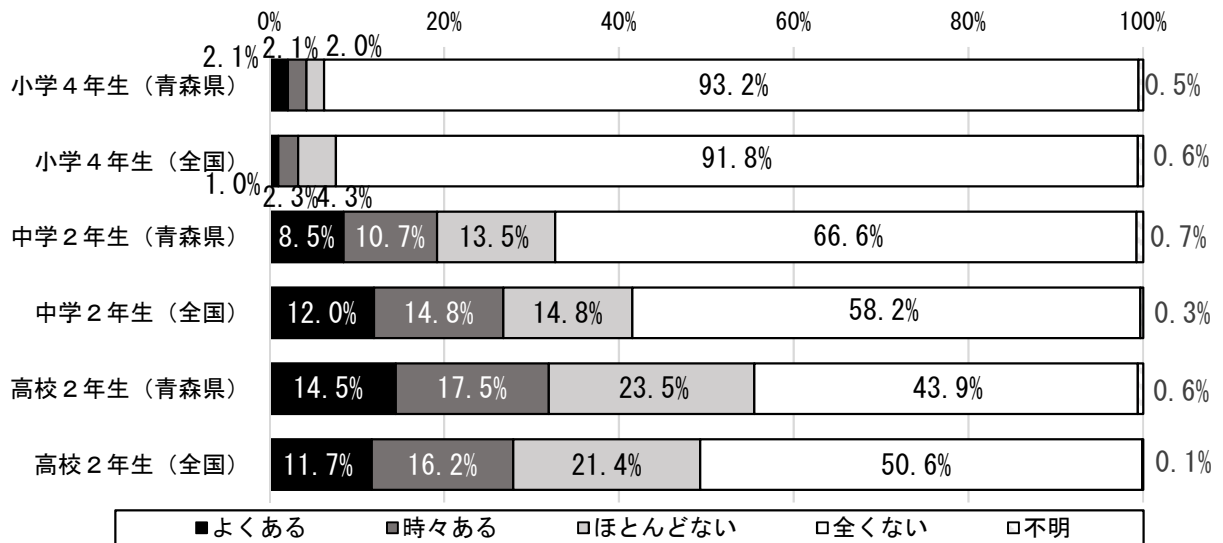
また、「会ったことのない人とメールやSNSのやりとりをする」において「よくある」「時々ある」と答えた青森県の中学2年生の割合は全国と比較すると、7.6ポイント減であるのに対し、高校2年生で比較すると4.1ポイント増となっている。



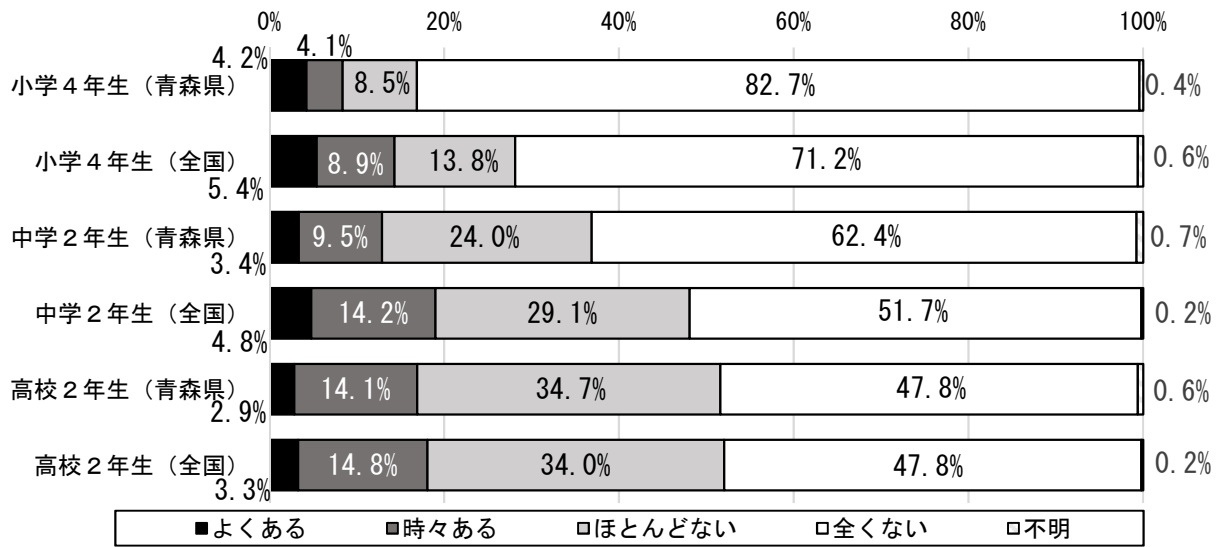
食事中やだんらん中でも携帯電話やスマートフォンが気になる（学年別）



会ったことのない人とメールやSNSのやりとりをする（学年別）



メールやSNSのメッセージを送った相手から
すぐに返信がないと不安になる（学年別）



5 世帯収入や子ども（小学生）の教育費（学校以外）

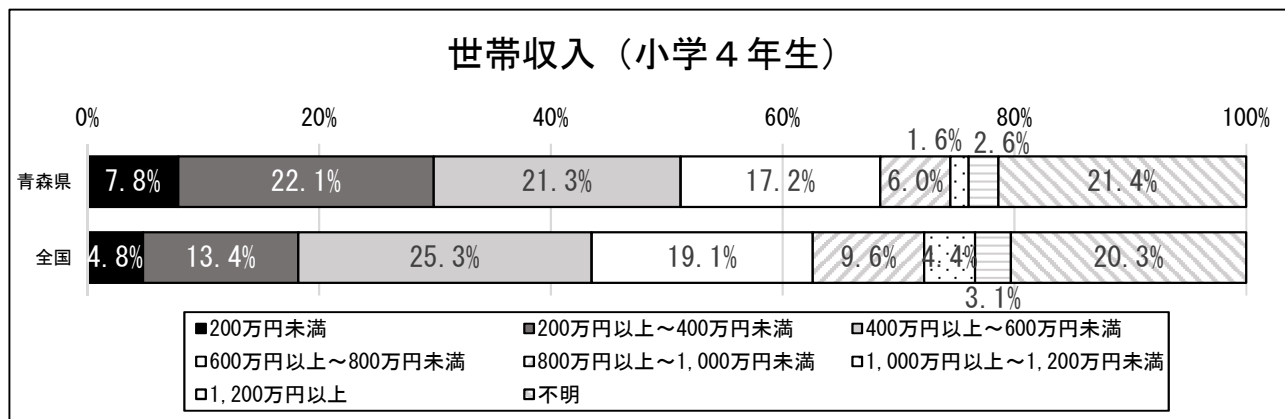
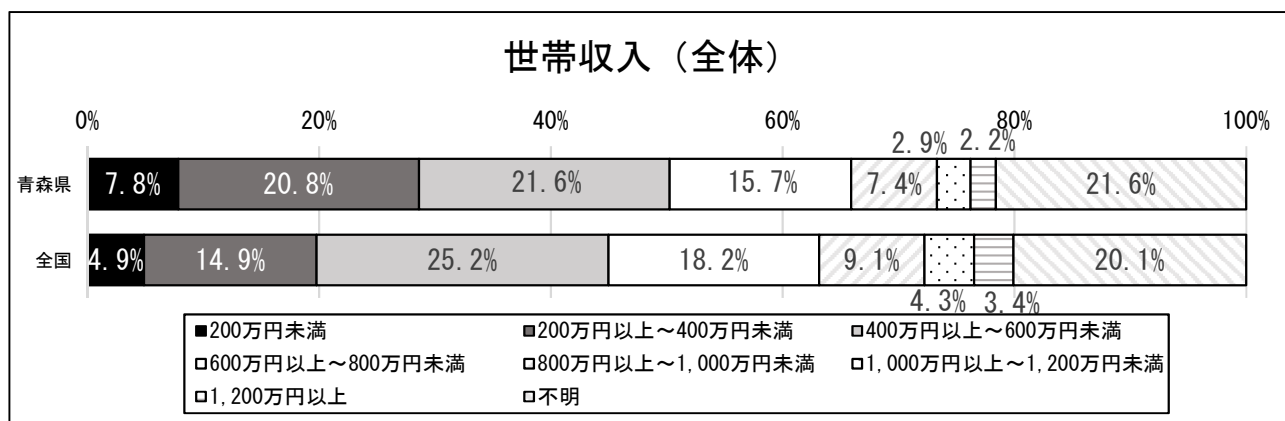
（1）世帯収入や子どもの教育費（学校以外）（小2・4・6㊟）

① 世帯収入

本県の小学校2・4・6年生の家庭の世帯収入についての数値を集計したものを「世帯収入（全体）」とした。

世帯収入の全体の現状は、青森県と全国ともに「400万円以上～600万円未満」と回答した割合が最も高くなっている。青森県では「200万円未満」「200万円以上～400万円未満」と回答した者を足した割合は28.6ポイントであり、全国と比べると8.8ポイント増となっている。

青森県の小学4年生では「200万円未満」「200万円以上～400万円未満」と回答した者を足した割合は29.9ポイントであり、全国と比べると11.7ポイント増となっている。



② 子どもの教育費（学校以外）の現状

子どもの教育費（学校以外）の現状は、青森と全国ともに「1万円未満」と回答した割合が最も高くなっている。青森県では「支出はまったくない」と回答した者の割合は30.5ポイントであり、全国と比べると2倍強となっている。

